

監 査 報 告

国立大学法人法第11条第6項及び国立大学法人法施行規則第1条の2第5項並びに国立大学法人法第35条の2において準用する独立行政法人通則法第38条第2項の規定に基づき、国立大学法人信州大学の令和7年4月1日から令和8年3月31日までの第22期事業年度の業務に関して監査を実施したので、以下のとおり報告する。

1 監査の方法及びその内容

監事は、国立大学法人信州大学監事監査規程に基づいて作成した当期の監査計画及び監査手続きに従い、学長、理事、内部監査室その他職員（以下「役職員等」という。）と意思疎通を図り、必要に応じて内部監査室と連携し、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、役員会、教育研究評議会、経営協議会、学術研究院会議その他重要な会議に出席するほか、役職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧・調査し、事務執行組織、学部、医学部附属病院その他の主要な事業所において業務及び財産の状況等を調査した。

また、本法人におけるガバナンス体制や学長及び理事（以下「役員」という。）の職務の執行が法令等に適合することを確保するための体制（以下「内部統制システム」という。）について、役職員等からその整備及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求めた。

さらに、会計監査に関しては、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、純資産変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、損失の処理に関する書類（案）及び附属明細書）、事業報告書及び決算報告書について検討した。

2 監査の結果

（1）業務の実施状況及び中期目標の実施状況

国立大学法人信州大学の業務の実施状況について、法令等に従って適正に実施されているかどうかを監査した結果、特に指摘すべき事項は認められない。なお、中期目標の着実な達成に向け効果的かつ効率的に実施されたかどうかについて確認した結果、課題のある計画もあり、大学執行部と部局とのより一層の相互コミュニケーションを求めた。

（2）内部統制システムの整備及び運用に関する状況

内部統制システムの整備及び運用の状況を監査した結果、特に指摘すべき事項は認められない。

（3）役員の不正行為及び法令等に違反する事実の有無

役員の職務の執行に関し、不正の行為又は法令等に違反する事実については、指摘すべき重大な事実とは認められない。

（4）事業報告書

事業報告書は、国立大学法人信州大学の業務運営の状況を正しく示しているものと認める。

(5) 財務諸表等

会計監査人である有限責任監査法人トーマツの監査の方法及び結果は相当であると認める。

令和8年6月12日

国立大学法人信州大学長
中 村 宗一郎 殿

監事 空 閑 良 壽

監事 廣 田 直 子